雪氷写真館㉘　蔵王山の樹氷「エビのしっぽ」/ Shrimp's tail : soft rime at Mt. Zao

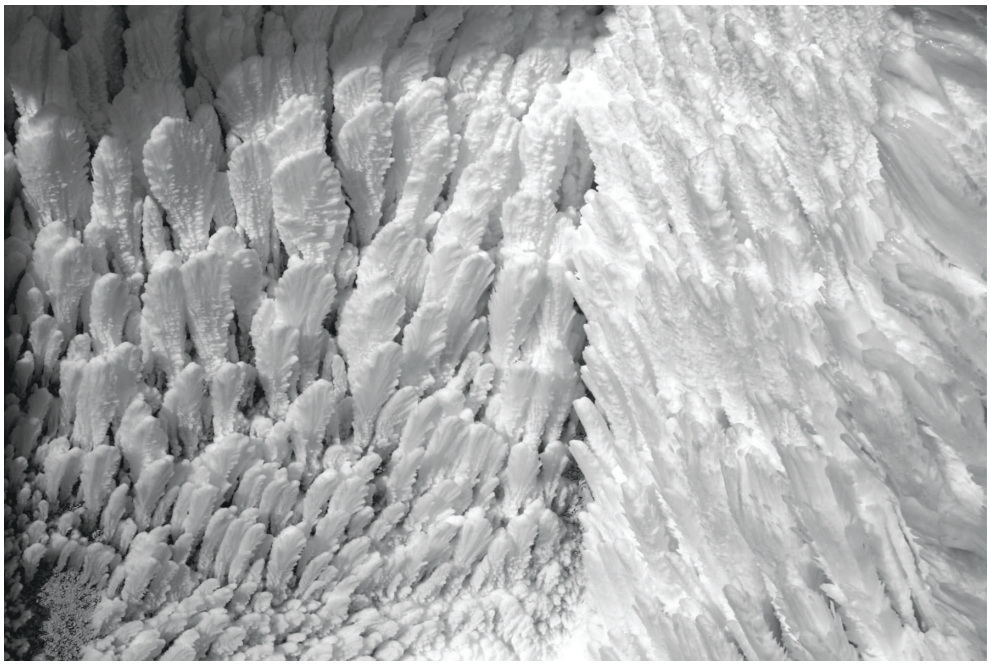

写真 1　刈田嶺神社の壁にできた「エビのしっぽ」.

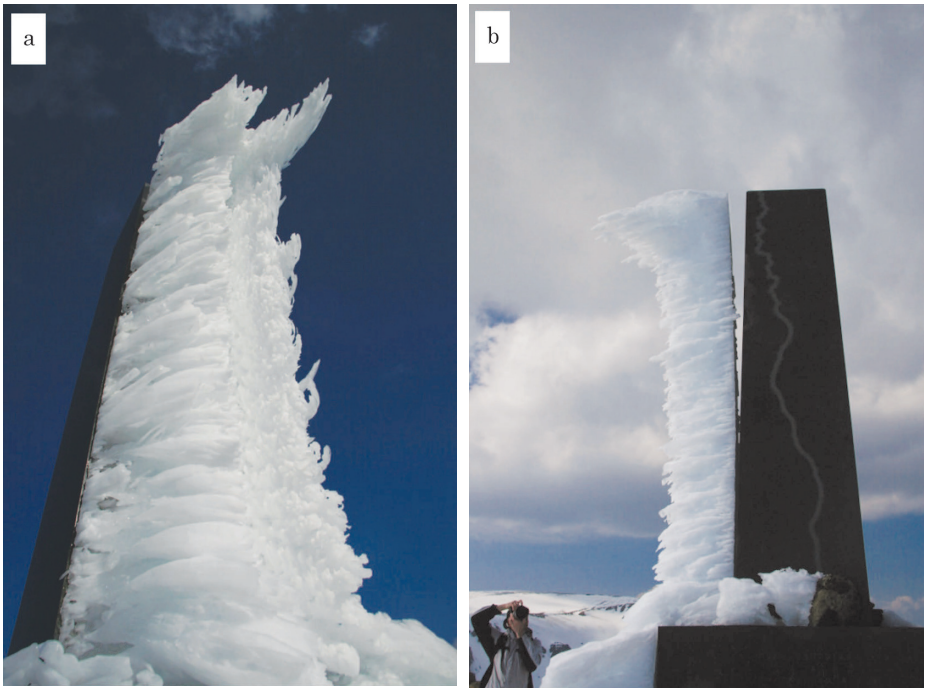

写真 2　(a) 巨大な樹氷に覆われた黒い石碑（刈田岳山頂）．樹氷の厚さは 35〜45 cm.
(b) 日射により石碑が暖まったために一部離れかかった樹氷．樹氷は刻まれた文字をすべて正確にかたどっていた.

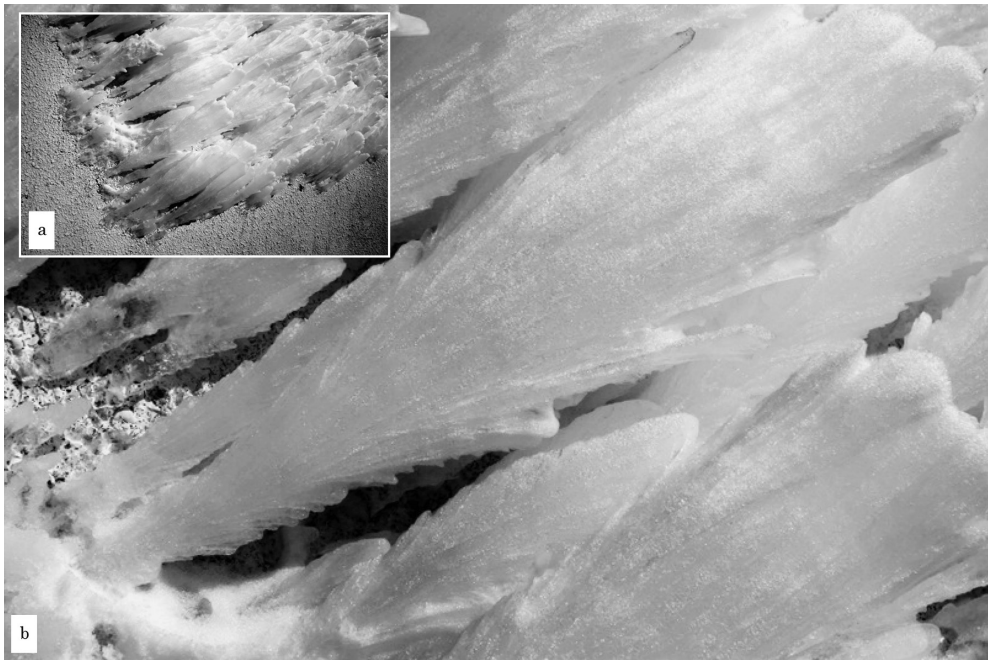

写真 3 （a）壁についた樹氷．写真右上へ向かってのびている．（b）写真（a）の拡大写真．大きなものは長さ 30 cm, 幅 10 cm にもなる．結晶の束は羽毛のように中心からほぼ左右対称にのびている．壁に付着している部分は透明な氷である．

蔵王山の樹氷「エビのしっぽ」

2009 年のゴールデンウィークの直前に季節外れの寒波が北日本を襲った．この寒波によりできた見事な樹氷が山形と宮城の県境に位置する蔵王の刈田岳山頂（標高 1758 m）付近で見られた（撮影日：4 月 29 日）．ただし，いわゆる「蔵王の樹氷；アイスモンスター」のようにアオモリトドマツにではなく地上の構造物に付着したもので，過冷却水滴が衝突して風上に向かって成長した典型的な樹氷である．まるでエビのしっぽを思わせる形状から日本では「エビのしっぽ」とよばれている（若浜，1995）．

刈田嶺神社の建物の壁（写真 1）が直角に交わっているところに付着した「エビのしっぽ」は，複雑な風の流れを反映して，場所により大きさや方向が異なっている（写真 1，3）．壁面に付着した樹氷の根元の部分は透明な氷となっており，羽毛のようにのびる枝は不透明で密度が小さくもろかった．石碑に付着した樹氷は日射で暖められ，上部が離れかかっていたが，石碑に刻まれた文字をすべて正確にかたどっていた（写真 2）．

文献：若浜五郎，1995：雪と氷の世界．東京，東海大学出版会，50-51.

エヴゲニ・ポドリスキ（名古屋大学大学院環境学研究科）
翻訳援助：徐ヨウル（元日本貿易振興機構ソウル事務所）
竹内由香里（森林総研十日町試験地）